

カミさんの掌の上で



浅沼浩之

名古屋大学大学院工学研究科生命分子工学専攻
[464-8603] 名古屋市千種区不老町
教授, 工学博士.
専門は核酸化学, 光化学, 高分子化学.
asanuma@chembio.nagoya-u.ac.jp
www.chembio.nagoya-u.ac.jp/labhp/bioanal3/

のろけるわけではないが、私がアカデミアで何とか生きてこられたのは、うちのカミさんがこれまでは私の好き勝手を黙認してくれたからだ、つくづく思う。そもそも私は学者志望ではなく、学位を取得してすぐに民間企業に就職した。そんな私がアカデミアに入ったのは、(残念ながら) 企業で輝かしい成果を挙げたので大学に引き抜かれたからではない。実は、カミさんと結婚した32歳頃から転職を真剣に考えるようになっていた。ちょうどその頃に友人の結婚式で偶然小宮山眞先生とお会いし、その二次会で酔ってなにげなく仰った「助手ポストが空いている」という一言に飛びついたのできっかけだった。企業からアカデミアにいくと給料が激減することが予想されたので(事実激減した)、私は強烈な「嫁ブロック」を覚悟していた。しかしカミさんは全く反対せず、私の心を見透かしたように“今の仕事が嫌で逃げるためにアカデミアにいくのではないよね。そうでなければいいんじゃないかな”と言っただけだった。それを受けて私は“実は子供の頃から学者になるのが夢だった”と、つまらない嘘をついた。銀行の総合職だったカミさんはアカデミアの厳しさを知らなかったし、共稼ぎなら収入減でも何とかなんと楽観的に思っていたのだろう。こうして東大で、私のアカデミアでの生活が始まった。

アカデミアに運良く入ったところまでは良かったが、人より優れたスキルや能力があったわけではないので最初の3年間は本当に辛酸を舐めた。その間にカミさんは第一子を妊娠したが、激務にどうしても耐えられず銀行を辞めて専業主婦となり、長女を出産した。私は生き残るために研究に没頭せざるを得ず、必然的に子育てはすべてカミさん任せになってしまった。日曜日だけは家にいて、カミさんが買い物に行っている間ぐらいは長女の面倒を見たのだが、長女は私に懐かない。カミさんの姿が見えなくなると長女は大声で泣き、泣きつかれて眠り、起きてまた泣くという繰り返りで、オムツさえ替えさせてくれず、カミさんが帰ってくるまで何もできずにいた。父親として全く無能であった。

カミさんは長女を生んだ2年後に第二子を妊娠したが、間の悪いことに私が出張で不在のときに破水してしまっ

た。一緒にいた長女はまだ2歳で泣くだけで何もできず、近所の方の支援で何とか緊急入院できた。早産だったものの次女を無事出産できたのは幸いだった。役立たずとは言え私が不在でカミさんはさぞかし心細かっただろう。私はようやく研究に明るい光が見えてきたところだったので、次女が生まれた後も相変わらず研究に没頭し、日曜日以外はほとんど大学に夜遅くまでいた。

さらにその2年後カミさんは第三子を妊娠した。カミさんが臨月で入院している最中に、私の携帯に電話がかかってきたが、間の悪いことにちょうど授業中だった。すわ緊急事態、授業を中断して(普通しない)電話にてたら産気づいたということだった。授業が終わってすぐに病院に駆け付け、なんとか長男の出産に間に合った。この頃には長女も幼稚園に行くくらい大きくなっており、カミさんのお手伝いも多少できるようになっていた。私は軌道に乗り始めた研究が面白くなっていたので、家のことは長女とカミさんに任せ、日曜日以外は大学で研究に没頭した。そして長男が生まれてから3年後に東大から名大に異動し、家からラボまで徒歩10分という極楽の環境を得て、ますます研究に没頭するのだった。目出度し目出度し。え!?

そうは問屋が卸さない。カミさんは私の悪事をすべて覚えており、最近は何かあるたびに、優秀な研究者のごとく具体的なデータを事細かに示して“あなたは好き勝手なことばかりして何もしなかった!”と責めるのだ。私が反論しても、好き勝手なことをされた3人の子供たちもカミさんの味方をする。まさに四面楚歌。子育てから解放されたカミさんは、今ではパートのおばちゃんとなり、超能力で名古屋大学教授を自在に操るのだ。孫悟空は筋斗雲でかっ飛ばしてもお釈迦様の掌からは出られない。もしお釈迦様が無慈悲に掌をぎゅっと握ったらどうなるか! 想像するだに恐ろしい。実は猿だったことに気づいた私が10年後にどうなっているか、このコーナーがまだ存続していたら続きを書こう。

若い男性研究者諸君よ、育児をカミさん任せにしてはいけない! カミさんを敬い、そして大切に下さい!